

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立北園高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長＝事務局長、教務主任、総務主任 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(総務担当)、学年担当 計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者3名、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、同窓会長、子どもに関わる関係機関代表1名 計9名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月18日（水）内部委員7名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
授業公開、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月19日（水）内部委員7名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和8年3月11日（水）内部委員8名、協議委員5名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月18日（水）内部委員1名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和7年11月19日（水）内部委員1名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和8年3月11日（水）内部委員1名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
 - ・学校運営、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動、健康・安全、ライフワークバランス
 - ・上記の6観点について学校評価を行い、学校経営計画の目標と方策を数値的に評価し、その結果を活用して教育活動の改善につながるよう平成29年度より全面的に改変した。令和5年度より回答順序を観点の順序にあわせて変更し、項目別にすることで回答をしやすくした。令和7年度より45分×7時間授業に関して項目を設け、自由記述を追加した。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- (1) 全校生徒 12月実施 対象938人 回答921人〈1年311, 2年312, 3年296〉98.0%(+0.3)
- (2) 全保護者 12月実施 対象938人 回答536人〈1年203, 2年176, 3年157〉57.1%(+3.4)
- (3) 全教員 12月実施 対象53人 回答53人 100.0%(±0)

※令和5年度より生徒・教員の回答率が大きく改善した。引き続きLHRの時間内でアンケートを回答する時間を確保するとともに、保護者への周知方法をさらに改善していく。

(3) 主な評価項目

- ・生徒・保護者・教員の三者に同一内容の質問とし、それぞれの回答を比較できるようにした。

- ・質問に対して、「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」（保護者には「わからない」）から一つを選択する単一回答の18項目と、該当するものの中から複数選択が可能な複数回答の6項目により構成している。
- ・マイクロソフト Forms を利用し、回答・集計の簡便化を図った。
- ・学校運営 入学満足度、施設・設備、情報発信、評価できる教育活動（複数回答）
 学習指導 授業主体性（生徒評価）、授業満足度、評価できる学習指導（複数回答）
 進路指導 第一志望支援、「信プロ」人間力育成、評価できる進路指導（複数回答）
 生活指導 規律・マナー（生徒評価）、適切な生活指導、いじめ防止取組、体罰等のない指導、
 生徒手帳の注意事項に当たる文章について
 特別活動 行事積極性（生徒評価）、行事人間性育成、部活動満足度、国際理解教育充実度、評価できる学校行事（複数回答）、評価できる部活動（複数回答）
 健康・安全 防災教育、校内美化（生徒評価）、教育相談機能、清掃できている施設（複数回答）
 ライフ・ワーク・バランス 教員のみ

（４）評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・全体を通して、生徒や保護者と教員で評価結果が異なることが多い。原因を考え対策を講じることが学校改善につながる。また、保護者の「わからない」という回答を減らすために、情報発信を細目に行う必要がある。
- ・学校運営では、入学満足度が3者ともに非常に評価が高い。設備については様々な自由意見があり、評価もあまり高くない。愛着をもって施設を大切に使用するよう指導する必要がある。45分×7限授業の取組は、継続して検証する必要がある。
- ・学習指導では、生徒の授業に対する主体性や授業満足度は3者とも比較的评价が高い。満足せず継続して授業改善に取り組む必要がある。
- ・進路指導では、生徒の第一志望実現の支援の項目について生徒・教員の評価が高い。「信州北園プロジェクト」については、教員・生徒から「あまり思わない」という意見が一定程度あるため改善を図る。
- ・生活指導では、生徒に向き合った生活指導では、教員とそれ以外との評価の差が改善されつつあるが、規律・マナー順守については差が大きく、具体的には生徒の自己評価は高いが教員の評価は決して高いとは言えない。いじめ防止の取組について、HP等で積極的に発信し、保護者の「わからない」という回答を減らす必要がある。
- ・特別活動では、学校行事に対する生徒の積極性、国際理解教育のいずれの項目についても3者の評価が高い。具体的に学校行事では、終祭・体育祭、部活動では種類の数が評価されている。
- ・健康・安全では、防災教育において生徒結果に多少改善が見られた。教育相談機能については、令和7年度よりスクールカウンセラーが2名体制になり教員の評価が大きく改善している。清掃が行き届いていない施設は、更衣室や階段廊下が指摘されているほか、自由意見ではトイレが挙げられている。

（５）評価結果の分析・考察

学校運営

問1〔生徒は、北園高校に入学して満足している〕（入学満足度）

生徒 93.8%(-0.6)、保護者 93.5%(-3.2)、教員 90.6%(-9.4)

問2〔生徒にとって、学校の施設・設備は整っている〕

生徒 28.0% (-7.2)、保護者 55.2%(-6.3)、教員 17.0%(-1.5)

問3〔学校の情報は、Classi やホームページなどにより適切に発信されている〕

生徒 82.9% (+14.8)、保護者 93.5% (+21.8)、教員 92.4%(+23.9)

問4〔本校の教育活動の中から評価できるもの（複数回答）〕

生徒 ①学校行事 25.2%、②校風・伝統 20.4%、③部活動 14.9%

保護者①学校行事 21.2%、②校風・伝統 20.0%、③授業 17.2%

教員 ①授業 27.9%、②国際理解教育 23.8%、③信州・北園プロジェクト 12.9%

問5〔生徒は45分×7限の授業内容に満足している〕（今年度より実施）

生徒 93.6%、保護者 89.5%、教員 85.0%

- ・入学満足度は、昨年度よりやや評価が低くなったが生徒・保護者とも9割を超え、3者ともに非常に高い。
- ・学校の施設・設備について、3者とも低く、特に教員の評価が低い。また、自由意見では例年のようにトイレの改修・改善の要望について意見が出ている。
- ・学校の情報発信について、Classiを導入した結果大きく改善した。引き続き、情報発信を行う必要がある。
- ・45分×7限授業に関して、概ね高い評価であったが、午後まで生徒の集中力が持続できるよう授業内容を改善していく。

学習指導

問6〔生徒は、主体的に授業に参加している〕

生徒 89.5%(+1.8)、保護者 81.6%(+1.3)（わからない6.7%）、教員 85.0%(-5.8)

問7〔生徒にとって、満足できる授業が多い〕（授業満足度）

生徒 85.8%(+5.8)、保護者 76.5%(+1.1)（わからない10.4%）、教員 83.0%(-11.5)

問8〔本校の学習指導の中から評価できるもの（複数回答）〕

生徒 ①習熟度別授業 25.2%、②第二外国語 24.9%、③3年文理分 20.3%

保護者①第二外国語 20.4%、②校内予備校 17.7%、③3年文理分 17.1%

教員 ①習熟度別授業 21.1%、②講習補習 18.4%、③3年文理分 17.7%

- ・授業の主体性に関する評価は、3者とも比較的高い。
- ・授業満足度は、教員の評価が大きく下がったため授業改善を促していく。
- ・評価できる学習指導について、生徒・教員で習熟度別授業が高くなっている。
- ・「3年での文理分け」（教養主義）に関する理解が進んできた。

進路指導

問9〔学校は、生徒の第一志望実現の支援をしている〕

生徒 86.5%(+0.6)、保護者 71.4%(-0.6)（わからない17.5%）、教員 96.2%(+3.6)

問10〔「信州北園プロジェクト」での経験は、人間力の育成につながっている〕

生徒 77.8%(+2.0)、保護者 73.6%(-8.2)（わからない15.9%）、教員 54.7%(-19.4)

問11〔本校の進路指導の中から評価できるもの（複数回答）〕

生徒 ①進路講演会 29.9%、②各種ガイダンス 20.6%、③進路の手引き 18.2%

保護者①進路講演会 21.1%、②各種ガイダンス20.6%、③模擬試験等 14.3%

教員 ①各種ガイダンス 18.8%、②進路講演会 17.3%、③面接指導 14.7%

- ・生徒の第一志望実現の支援は、3者とも比較的高い評価は高いが保護者が若干低い。「わからない（17.5%）」を減らすよう改善する。
- ・信州北園プロジェクトについて、教員の評価が大きく下がったため、内容の改善に取り組む。
- ・評価できる進路指導について、生徒・保護者で進路講演会、各種ガイダンスの評価が上がっており、

進路指導部を中心とした組織的な進路指導の成果がでている。進路の手引きは、これまで1学年のみに配布していたが、次年度より全学年に配布し、進路指導で活用する予定である。

生活指導

問12〔生徒は、規律を大切にし、マナーを守っている〕

生徒 97.1%(+0.2)、保護者 92.6%(+2.5) (わからない 3.5%)、教員 77.3%(+10.6)

問13〔学校は、生徒と向き合い、適切な生活指導を行っている〕

生徒 86.5%(+12.2)、保護者 79.5%(-1.8) (わからない 12.3%)、教員 81.1%(+7)

問14〔学校は、いじめ防止に組織的に取り組んでいる〕

生徒 84.8%(+2.5)、保護者 54.9%(+0.1) (わからない 40.1%)、教員 88.7%(-5.8)

問15〔学校は、体罰や暴言のない指導を実践している〕

生徒 94.0%(+3.2)、保護者 76.3%(-1.3) (わからない 18.5%)、教員 90.5%(-0.3)

- ・規律・マナー順守についての評価は、生徒・保護者と教員に開きが見られる。継続して指導を行う。
- ・生徒に向き合った生活指導については、生徒と教員の評価が改善した。引き続き個に応じた丁寧な生徒指導を心掛けるようにする。
- ・いじめ防止の取組は、保護者の「わからない (40.1%)」に関して、適切に情報発信を行い改善していく。体罰や暴言のない指導の実践に関しても同様である。

特別活動

問16〔生徒は、学校行事に積極的に参加している〕

生徒 94.7%(+0.6)、保護者 92.2%(-0.6) (わからない 0.9%)、教員 83.1%(-5.8)

問17〔生徒は、学校行事によって個性豊かな人間性が育まれている〕

生徒 93.3%(+0.3)、保護者 82.9%(+0.6) (わからない 8.2%)、教員 81.2%(+5.2)

問18〔生徒は、本校の部活動に満足している〕

生徒 86.8%(-1.9)、保護者 77.0%(-2.0) (わからない 7.3%)、教員 83.0% (-2.2)

問19〔本校の国際理解教育は、充実している〕

生徒 93.9%(+2.8)、保護者 76.3%(+3.3) (わからない 19.0%)、教員 94.3%(-0.1)

問20〔本校の学校行事の中から評価できるもの(複数回答)〕

生徒 ①終祭 24.2%、②体育祭 19.4%、③修学旅行 19.1%

保護者①終祭 25.1%、②体育祭 19.3%、③森林探究実習 18.7%

教員 ①終祭 22.4%、修学旅行 22.4%、②森林探究実習 16.8%、③体育祭 14.4%

問21〔本校の部活動の中から評価できるもの(複数回答)〕

生徒 ①種類の数 32.4%、②活動日数 16.8%、③活動時間 12.9%

保護者①種類の数 27.5%、②活動日数 20.4%、③活動時間 16.6%

教員 ①種類の数 30.4%、②コーチ等の指導 15.7%、③顧問の指導 14.7%、

- ・学校行事に対する生徒の積極性は、生徒と保護者で非常に評価が高い。評価できる学校行事では、生徒・保護者の終祭・体育祭の評価が高かった一方で、教員は修学旅行の評価が高かった。
- ・部活動満足度は、保護者「わからない (7.3%)」を減らすためにClassi等で情報発信していく。評価できる部活動の内容は、種類の数が3者ともに高い。
- ・国際理解教育充実度は、国内語学研修やオーストラリア語学研修等により、生徒と教員で高い評価になっている。保護者への情報発信が課題である。

健康・安全

問22〔生徒は、校内美化に積極的に取り組んでいる〕〔校内の清掃は行き届いている〕

生徒 82.5%(-0.1)、保護者 56.1%(+2.3) (わからない31.3%)、教員 68.0%(-0.5)

問 23 [学校は、防災教育を通して、自助・共助の意識を育成している]

生徒 78.1%(+9.0)、保護者 47.4%(+2.8) (わからない44.4%)、教員 71.7%(-6.1)

問 24 [学校は、カウンセリングなどの教育相談機能が整っている]

生徒 85.2%(+6.7)、保護者 57.6%(+8.6) (わからない36.8%)、教員 92.5%(+25.8)

問 25 [本校の施設の中から清掃が行き届いていない場所 (複数回答)]

生徒 ①更衣室 20.2%、②階段廊下 15.7%、③普通教室 14.0%

保護者①階段廊下 22.3%、②普通教室 8.5%、生徒昇降口 8.5%、③更衣室 8.1%

教員 ①特別教室 19.8%、②普通教室 16.0%、③生徒昇降口 15.1%

- ・防災教育は、暑さや三密を避けた避難訓練 (講話中心) 等により、防災教育の内容が薄かったためと考えられる。
- ・校内美化の取組は、施設が古くても、きれいな状態を維持できるようにしていく。
- ・教育相談機能は、教員の評価が 25.8 ポイントと大きく上がった。スクールカウンセラーが 2 名体制になったことが影響している。今後も教育相談体制の充実を推進する。

ライフワークバランス

問 26 [ライフ・ワーク・バランスについて、国や都が働き方改革に取り組んでいることに一定の成果がある]

教員 32.1%

問 27 [教職員の在校時間の縮減を図り、教職員の健康管理や職場環境の整備等を推進している。]

教員 34%

- ・現在の業務量に負担を感じている教員が多い。若手教員の超過勤務を縮減できていないため、業務見直しを進めていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

※第 1 回協議会と、第 2 回第 3 回の協議委員からのアンケート回答内容より記載する。

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・45分×7限授業に関しては、しっかり総括してほしい。また、3年間は継続してほしい。
- ・生徒の学校への理想 (自由に対する意識) と学校としての姿勢 (考え) について、対話を継続してほしい。
- ・明確な経営方針のもとで、明確な学校運営が為されていると受け止められた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・情報発信が不足しており、保護者が「わからない」という状況を減らすべきである。
- ・何のために学ぶのか、本質とキーワードをおさえて自学自習を進めさせる必要がある。
- ・アンケート結果を受けて、教員でコミュニケーションをとる必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

施設・設備については、施設の老朽化や空調工事の影響が顕著に表れ、評価が低くなっている。古い校舎だが愛着をもって使用できるよう生徒を指導する。

広報活動について、引き続き組織的に取り組むとともに、通学圏内で認知度が低い地域の中学校や学習塾に向けて積極的に広報活動を展開する。

45分×7限授業に関して、授業力向上に努めるとともに、成果検証を継続する。

(2) 学習指導

観点別学習状況評価の更なる充実とその質を高めるために、(指導と評価の一体化に向けて) 毎学期、評価に関する検証を行いつつ、評価に関する理解を深める。

(3) 特別活動

体育祭や終祭等の学校行事における課題を整理し、生徒の自主性を活かしつつ教員で十分に指導を行い、時代に即した質の高い行事を構築する。地域との連携による防災訓練を実施する。

(4) 生活指導

スクールカウンセラー2名体制を活用し教育相談の充実を図るとともに、組織的な生徒指導に取り組む。適切にいじめ問題に対処し、生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。Classi等を活用して情報発信を行い、学校・生徒・保護者で、いじめや体罰を許さない雰囲気醸成する。

(5) 進路指導

1・2年生の自主学習時間を増やすとともに、受験準備を早期に開始させることにより、第一志望実現を支援する。校内予備校や自主学習支援事業の課題を整理し、充実させることで、生徒に学校で学習する習慣を身に付けさせる。大学入学共通テストの結果を踏まえ、キャリアガイダンスや進路講演会、キャンパス訪問等、進路指導の改善及び一層の充実を図る。夏期特別講習について、生徒へ早めに周知し、組織的に取り組み、生徒が学校生活を中心に学習できるようにする。

(6) 健康・安全

コロナ禍で十分に実施できなかった防災活動について、地域との連携を深めて計画・実施する。スクールカウンセラーの活用について、生徒の実情は、情緒不安定等、困難さが増している状況で、予約方法がわかりにくいため、相談体制の整備を急ぐ。

(7) ライフワークバランス

超過勤務傾向にある若手教員が複数いるため、分掌主任等との面談やアウトリーチ事業をとおして、業務改善に取り組む。また、現在の業務量に負担感を感じている教員が多いことを踏まえ、業務の効率化と負担感の軽減に取り組む。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	1					2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

実績なし

8 その他

計画していた学校運営連絡協議会が全て対面形式で実施でき、各委員から様々な貴重な意見を聞くことができた。委員に授業見学を促し、本校の教育活動を見てもらうことで、生徒状況を把握していただくとともに、交流が深まり、近隣小学校の授業見学を実施することができた。小学校、中学校、高等学校の教育のつながりを意識した授業改善につながった。今後、本校の情報を発信し、外部からの意見を取り入れていく。